

# みつくら

令和 4年 1月15日 第354号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 大瀬川にかかわる書籍展を開催

大瀬川文化祭に併せて、大瀬川活性化会議主催で石鳥谷図書館共催の「大瀬川にかかわる書籍展」は、11月20日から12月17日まで大瀬川振興センターで開かれた。  
 展示内容は「大瀬川の歴史書籍」25冊、大瀬川の生活書籍14冊、「大瀬川の自然紹介書籍」4冊、「大瀬川にかかわる方の著書」32冊、「大瀬川の宮澤賢治書籍」6冊、「大澤竹次郎関連書籍」10冊、「大瀬川の方の寄稿や大瀬川が記載されてる書籍」107冊など合わせて198冊が展示した。展示パネルの表示には、大瀬川の誰がどの書籍に関係するのかを分かり易く50音順に139名を紹介していた。なお、この書籍展の記事が岩手日日新聞12月11日に記載され、他地域の方々が見学に訪れていた。

## 一粒会が解散

昭和41年に発足した一粒会は、会員が亡くなったり高齢化のために最後の例会を11月8日に第一部消防会館で開催し、その場で解散した。10周年記念集会（正確には10周年記念会）は昭和51年9月23日に石鳥谷温泉葛丸荘で開催し翌年の昭和52年には簡単な「10周年記念誌」を会員に配付しているが、その中で幹事の熊谷義隆さんは発足の経緯について載せていて「発足当時、町有林の刈り払いを請け負っていましたが菅原昭一さんと、熊谷新一さん、それに大瀬川青年会を退いた菅原榮一さんが加わった3人の発起人が他の青年会OBに声をかけて、農業問題など話しあう会を作ろうではないかと、稲作の一粒の会ではと言うことで名付けました。発足以来今まで春秋2回の集会がもたれ、会則もなくただ集まり話し合い、また酒を汲み交わし楽しく過ごして来ましたが、昭和48年には板垣岑生さんが起案した規約を作り、当初は15人でしたが、後に3人が加わり現在は18人で組織しています」とあった。  
 当時の会員は菅原昭一さん、熊谷義隆さん、菅原榮一さん、熊谷新一さん、板垣邦博さん、板垣岑生さん、板垣博司さん、熊谷長悦さん、藤原米光さん、熊谷富男さん、菅原得之さん

板垣公法さん、板垣幸寿さん、菅原銀一さん、板垣弘さんの15人で、後に菅原巖さんと、板垣正博さん、熊谷和元さんが加わり18人であった。このような歴史をたどり、一粒会は遂に55年の歴史に幕を閉じた。

## 表彰 (敬称略)

第16回奥州市社会福祉大会長表彰  
 寿水会理事 菅原康栄  
 市町村感謝状  
 大瀬川地区更生保護女性の会  
 板垣福子 熊谷るり子 高橋厚子 藤原篤子  
 優良表彰(無火災連続5年)  
 花巻市消防団第13分団1部

## 県道盛岡石鳥谷線で交通事故

大瀬川の県道285号線十字路(熊谷律夫さん宅東側)で、12月9日に交通事故があった。岩手日報によると、同日午前10時15分に西進中の紫波町日詰の男性(65歳)が運転する軽ワゴン車に、南進中の同じく紫波町日詰の男性(44歳)のトラックが衝突した。軽ワゴン車の男性は意識不明の重篤で救急ヘリで県高度救命救急センターへ運ばれた。  
 軽ワゴン車の側には一時停止の標識があるが、この交差点は一時停止しても見通しが悪く、一旦停止線に止まったあとにもう一度少し前進して再度停止してから左右を確認しなければならない所である。この十字路では3年前にもトラックが電柱に衝突し重傷で救急ヘリで運ばれている。

## 安協大瀬川分会がカレンダーを配付

交通安全協会大瀬川分会(板垣吉彦会長)では、12月26日に飲酒運転撲滅を呼び掛ける交通安全啓発運動の全戸訪問を行なった。これに合せ、分会では令和4年のカレンダーを制作した。大きさは縦55cm、横38cmで、週毎の上段には啓発の用語が掲げられており、1月の2週目には「カーブを曲がる際、先行車の減速等に対応できる車間距離と速度で」などと書かれてある。板垣会長は「コロナ禍のために、移動研修など事業を自粛しているため、今年は啓発活動に予算をとって大瀬川から交通事故がないように願って作りました」と話された。  
 予定表としても使える便利なカレンダーだが、大瀬川の歴史上、安協大瀬川分会のカレンダー制作は初めてで、この企画に改めて敬意を表し、今後ともひとり一人が安全運転に心がけたいものである。

## 地区民へお知らせする

7区自治公民館(畠山勝則館長)では、新型コロナウイルスの新たな「オミクロン株」の感染拡大が懸念されることを踏まえ、例年行なっている「新年会」と「みずぎ団子作り」を昨年に続き中止することを12月18日の運営委員会で決定し、7区地区民へお知らせした。

## 一年の安寧を願ってしめ飾り

8区婦人会と農協女性部8区分会(いずれも板垣江利子会長)は共催で12月11日、大瀬川振興センターで14人が集って、花巻市小瀬川にお住まいの吉田昌子さんを講師にしめ飾りを作った。  
 この日のしめ飾りは「洋風しめ飾り」で、材料は総て吉田講師が栽培したものという。藁は古代米で所々に黒い葉が入り交じり、松ぼっくりやカチャカチャ花っこ、綿の花、野バラの実、松葉、南蛮、ひばの葉、のこぎり草はドライフラワーに加工したものを使っていた。参加者は専用の工具を使って2時間ほどで直径20cmほどのしめ飾りを仕上げた。  
 参加した熊谷レイ子さんは「思ったよりきれいな出来映えで、これを玄関に飾って良いお正月を過ごします」と話していた。

## たんぼぼの会でクリスマス会

去る、12月22日に9区たんぼぼの会(熊谷幸子会長)では、9区自治公民館で17名が参加してクリスマス会を行った。感染対策をしながら、マスク着用でのお喋りや、熊谷会長の指導で折り紙を作ったりして楽しんだ。帰りにはケーキとプレゼントが配られ「来年も元気に集まりましょう」と声を掛け合いながら帰途についた。

## 板垣さんが門松を寄贈

板垣幸寿さんが作った門松で、今年も大瀬川振興センターでは正月を迎えた。大瀬川振興センターに門松を飾り始めたのは、振興センターの前身であった大瀬川公民館が大瀬川小学校跡地に新築した翌年、平成14年の正月に板垣好一さん(谷地家)と板垣昭一郎さん(上金矢家)が協同で作り、大瀬川公民館と大瀬川構造改善センターに飾ったのが始まり。  
 平成15年以降は板垣好一さんが作り飾っていた。板垣さんが亡くなった翌年の平成18年正月には、菅原善治さん(助作竈家)が作って飾った。平成19年以降は、板垣好一さんから引き継いだ幸寿さんが毎年作り飾っているが、平成23年の正月だけは谷地家で板垣キミ子さんの喪に服していたので飾るのを休んでいる。  
 門松は直径30cm、高さ120cmの大きさと、松竹梅の竹は、太さ8cmの青竹3本を組合せ、その脇に松の青い枝葉と梅の花が樽一杯に差し込まれた立派なもので正月の松の内まで飾る。

## 農地水で農道の砂利敷

葛丸の農村環境を守る会(構成員372名、板垣幸夫会長)では、11月26日から12月3日まで活動地域内の農道に砂利敷をした。使用した砂利の量は7区が2トン車で12台、8区は17台、15区が6台であった。  
 まだまだ必要な道路があったが、予算の関係で今年度は終了している。